アジアの労働移民に関する円卓会議

5月24日，25日にタイ，バンコクにて第12回アジアの労働移民に関する円卓会議が開催され，厚生労働省から清水慶一国際経済機関係長，及び当研究所より是川夕国際関係部長が参加した．同会合はOECD，アジア開発銀行研究所，ILOアジアパシフィック事務所の共催によるものであり，アジアの国際労働移動に関してアジア諸国の政策当局者を中心とした情報交換のため，毎年アジアの各所で開催されるものである．本年の会合では新型コロナ禍により急速に縮小したアジアの国際労働移動の現状とその後の回復に向けて動きについて各国のアジア諸国の政策当局者からの報告を中心に議論が行われた．当方からは是川がコロナ禍下における日本の外国人受け入れの状況について，及び主に農業分野における技能実習生の受入れについて報告を行った．（是川　夕　記）

日本人口学会第74回大会

日本人口学会第74回大会は，2022年6月11日（土）～6月12日（日）に神戸大学を開催校・共催として3年ぶりの対面形式で開催された．大会プログラムは以下の通りである．第1日には「人口学の新たな視点―自然科学・人文科学・社会科学の観点から―」と題したシンポジウムが行われ．また，以下に示した学会賞各賞が発表され，授与された．

第1日 2022年6月11日（土）

自由論題 A-1「国際1」

1）林玲子（国立社会保障・人口問題研究所）「日中韓少子高齢化施策の推移と構成要素」

2）守泉理恵（国立社会保障・人口問題研究所）「日韓の少子化と少子化対策に関する比較考察」

自由論題 B-1「感染症1」

1）逢見憲一（国立保健医療科学院）「2000年以降わが国死因別齢調整死亡率とインフルエンザ・COVID-19超過死亡」

2）小島宏（早稲田大学）「英国ムスリム若年者における宗教関連行動とパンデミック対処行動」

3）新田目夏実（拓殖大学）「フィリピン貧困地域の衛生と感染症問題―SDGsとの関連で」

自由論題 A-2「国際2」

1）可部繁三郎（日本経済新聞社）「高所得国における経済成長と人口」

2）影山純二（明海大学）「Parochial altruism, well-being, and attitudes toward immigrants」

自由論題 B-2「感染症2」

1）安田公治（青森公立大学）・衣笠智子（神戸大学）・羽森茂之（神戸大学）・勇上和史（神戸大学）・増本康平（神戸大学）「コロナ禍での長寿が子どもの教育に与える影響についての計量分析」

2）松浦広明（松蔭大学）「The Role of International Migration, Domestic Migration, and Short-term Travel in the Timing of COVID-19's Arrival: Evidence from County-level Data in the United States」

自由論題 A-3「人口移動」

1）小坪将輝（東北大学・院）・中谷友樹（東北大学）「2012-2020年の市区町村間人口移動による移動効果指数の変化」

2）井上孝（青山学院大学）「日本の生涯人口移動データを用いた再移動のランダム性について―再移動性指数の再検討―」

テーマセッション「社会格差とリプロダクション」

組織者：小西祥子（東京大学）

1）小西祥子（東京大学）・森木美恵（国際基督教大学）・仮屋ふみ子（東京大学）・赤川学（東京大学）「日本における学歴と性行動」

2）打越文弥（プリンストン大学）・チェンマンティン（西南財経大学）「Long-term Consequences of Early-career Disadvantage on Fertility: Evidence from Japan」

討論 1　岩澤美帆（国立社会保障・人口問題研究所）

討論 2　津谷典子（慶應義塾大学）

自由論題 C-1「出生・子育て」

1）藤野敦子（京都産業大学）「ライフコース上で生じる夫の転勤が妻の出生意欲に与える影響―反事実モデルによる直接・間接効果の測定から―」

2）斉藤知洋（国立社会保障・人口問題研究所）「夫の家事育児遂行パターンと妻の追加出生意欲」

3）西村智（関西学院大学）「父親の非典型時間帯就労が育児時間に与える影響」

企画セッション 2「人口動態モデルのフロンティア」

組織者：岩澤美帆（国立社会保障・人口問題研究所）

1）余田翔平（国立社会保障・人口問題研究所）・岩澤美帆（国立社会保障・人口問題研究所）・石井太（慶応義塾大学）「年齢別出生率のセミパラメトリックモデル」

2）是川夕（国立社会保障・人口問題研究所）「在留外国人の滞在期間別帰国ハザードの推定」

3）石井太（慶應義塾大学）・別府志海（国立社会保障・人口問題研究所）・余田翔平（国立社会保障・人口問題研究所）・岩澤美帆（国立社会保障・人口問題研究所）・堀口侑（慶應義塾大学・院）「多相生命表を利用した配偶関係別将来人口推計」

討論：鈴木透（韓国ソウル大学保健大学院客員教授）

シンポジウム「人口学の新たな視点―自然科学・人文科学・社会科学の観点から―」

組織者：衣笠智子（神戸大学）

1）衣笠智子（神戸大学）「趣旨説明と経済学の視点」

2）関根由紀（神戸大学）「高齢期の社会保障：世代間連帯の調整・補完・代替？ ―法の観点からの検討―」

3）増本康平（神戸大学）「超高齢社会の well-being と社会的つながり」

4）中澤港（神戸大学）「人類学における人口学の展開」

学会賞授与

学会賞：西岡八郎・江崎雄治・小池司朗・山内昌和（編），2020,『地域社会の将来人口：地域人口推計の基礎から応用まで』，東京大学出版会.

優秀論文賞：打越文弥・麦山亮太，2020，日本における性別職域分離の趨勢―1980–2005年国勢調査集計データを用いた要因分解―，人口学研究 56，pp.9-23.
守泉理恵，2019，日本における無子に関する研究，人口問題研究，75(1)，pp.26-54.
普及奨励賞：安元稔，2019，『イギリス歴史人口学研究―社会統計にあらわれた生と死』，名古屋大学出版会.
学会特別賞：原俊彦，津谷典子

第２日 2022年６月12日（日）

自由論題 D-1「死亡」
１）堀口侑（慶應義塾大学・院）「回帰モデルによる出生コホート別死亡数の推計」
２）菅桂太（国立社会保障・人口問題研究所）・石井太（慶應義塾大学）・別府志海（国立社会保障・人口問題研究所）「月別死亡率からみた季節性とその地域差」
３）黒須里美（麗澤大学）・髙橋美由紀（立正大学）「人口移動と健康―近世東北在郷町の死亡分析―」

企画セッション１「セクシュアリティ人口学の現在とこれから」
組織者：釜野さおり（国立社会保障・人口問題研究所）
１）鈴木俊光（中央大学）「『セクシュアリティの人口学』から，社会経済的要因にみる婚外交際行動」
２）森木美恵（国際基督教大学）「『セクシュアリティの人口学』から，セックスレス・カップルと価値観：出生力とセクシュアリティの観点から」
３）釜野さおり（国立社会保障・人口問題研究所）・岩本健良（金沢大学）「『セクシュアリティの人口学』から，SOGI と社会的属性」
４）平森大規（法政大学）「アロマンティック／アセクシュアル・スペクトラムの人口学的多様性」
５）武内今日子（東京大学・院）「Xジェンダー当事者の家族形成」
６）布施香奈（国立社会保障・人口問題研究所）・藤井ひろみ（大手前大学）「生殖医療ガイドラインを適用しづらい挙児希望者の“ART”活用法の類型」
７）三部倫子（奈良女子大学）「医療機関における家族と SOGI」
８）平森大規（法政大学）「SOGI と社会階層」
９）申知燕（昭和女子大学）「SOGI と国際移住」
10）山内昌和（早稲田大学）「大阪市における性的マイノリティの空間分布」
11）釜野さおり（国立社会保障・人口問題研究所）「同性カップルと国勢調査」
12）千年よしみ（国立社会保障・人口問題研究所）「SOGI 設問に対する郵送・ウェブ回答の項目無回答率・回答分布の比較」
13）小山泰代（国立社会保障・人口問題研究所）「社会調査における高年齢層の SOGI の捉え方」
討論１　小島宏（早稲田大学）
討論２　林玲子（国立社会保障・人口問題研究所）

自由論題 D-2「歴史１」
１）川口洋（帝塚山大学）「天保４（1833）年凶作後の陸奥国会津郡における死亡危機」
２）津谷典子（慶應義塾大学）・黒須里美（麗澤大学）「近世東北農村における経済状況と世帯属性の人口行動への影響」
３）廣嶋清志（島根大学）「江戸後期農村人口における波動と飢饉―石見国今浦に見る」

自由論題 D-3「歴史 2 」
1）長谷川普一（新潟市役所）「100年前と現在の人口および土地利用の比較」
2）原俊彦（札幌市立大学）「サピエンス減少、人類史の転換点」
3）大塚友美（日本大学）「小日本主義時代の人口政策」

自由論題 E-1「統計と分析」
1）井上希（国立社会保障・人口問題研究所）・松本茂（青山学院大学）・眞弓浩三（京都情報大学院大学）「マイクロデータを用いた家計のエネルギー消費の将来推計」
2）井川孝之（明治大学）「平均余命の差異の各種要因の探索―データ変換と縮約を用いた手法―」
3）関野秀峰（総務省統計局）・北原昌嗣（総務省統計局）「令和 2 年国勢調査 不詳補完結果の状況」

自由論題 E-2「地域人口」
1）芦谷恒憲（兵庫県立大学）「兵庫県における地域人口を用いた政策分析事例と課題」
2）小池司朗（国立社会保障・人口問題研究所）「戦後における出生力・死亡力の市区町村間較差の長期的変化」

企画セッション 4 「兵庫県豊岡市における外国人住民の暮らし・仕事・教育」
組織者：平井晶子（神戸大学）
1）白鳥義彦（神戸大学）「豊岡調査の概要と論点」
2）梅村麦生（神戸大学）「外国人住民が働くさまざまな産業と事業所」
3）佐々木祐（神戸大学）「就労経験を「流用」する：技能実習生・インターンシップ生を中心に」
4）齊藤優（神戸大学・院）「非正規雇用の外国人労働者―業務請負・派遣として就労する日系フィリピン人を中心に―」
5）平井晶子（神戸大学）「外国人住民の家族と暮らし―豊岡での生活・母国との関係を中心に」
6）小林和美（大阪教育大学）「外国にルーツのある子どもの育ちをめぐる現状と課題：妊娠・出産から小学校入学まで」
7）奥井亜紗子（京都女子大学）「外国にルーツのある子どもの小中学校における現状と課題」

企画セッション 3 「地域人口の分析方法：最近の成果と課題」
組織者：清水昌人（国立社会保障・人口問題研究所）
1）丸山洋平（札幌市立大学）「マクロ統計データの組み合わせによる新たな地域人口分析指標」
2）鎌田健司（国立社会保障・人口問題研究所）「空間統計学を用いた地域人口分析―出生力転換における拡散理論の方法論的刷新とローカル・モデル―」
3）中川雅貴（国立社会保障・人口問題研究所）「人口移動研究におけるマルチレベル分析の適用―ミクロ分析と地域分析をリンクさせる試み―」
4）丹羽孝仁（帝京大学）「発展途上国の農村地域における地域人口分析」
討論 1 ：高橋眞一（新潟産業大学）
討論 2 ：山内昌和（早稲田大学）

自由論題 F-1「労働とジェンダー」
1）新村恵美（帝京平成大学）「インド有配偶女性の就業および就業形態と世帯内意思決定」
2）佐藤一磨（拓殖大学）「管理職となった女性は幸せなのか」

3）永瀬伸子（お茶の水女子大学）・太田裕治（お茶の水女子大学）・ヘルトグエカテリーナ（オックスフォード大学）・ヴィリレドンバルタ（オックスフォード大学）・島田佳子（お茶の水女子大学）・Lulu Shi（オックスフォード大学）「AI, ICT 等の技術変化が家事・育児・介護労働に与える影響」

自由論題 F-2「労働と年齢構造」

1）水落正明（南山大学）・レイモジェームス（プリンストン大学）「引退経路と健康の関係の分析」

2）岸智子（南山大学）・鹿野繁樹（大阪公立大学）「Job training and employment of older workers: An analysis based on the EU panel data」

（岩澤　美帆　記）

第 6 回死亡データベースシンポジウム及びサテライトミィーティング（The 6th Symposium of the Human Mortality Database 及び Satellite Meeting）における研究報告

死亡データベース（Human Mortality Database, HMD）プロジェクトは，国際比較及び地域比較が可能な死亡に関する精度の高いデータを収集することを通じて，先進国における死力転換のパターンと要因及びその帰結を解明することを目指すものである．HMD プロジェクトはカリフォルニア大学バークレー校とドイツ・マックスプランク研究所によって2000年に始動し，2002年に初めてデータベースを公表しており，本年にちょうど20周年の節目を迎えた．日本からは石井太氏（前人口動向部長）も参画しており，当研究所も HMD の黎明期から積極的に国際的な知の蓄積に貢献してきた．また，当研究所においては，HMD と整合性をもち，わが国の生命表を死亡研究に最適化して総合的に再編した死亡データベース「日本版死亡データベース」を，人口問題プロジェクト研究「わが国の長寿化の要因と社会・経済に与える影響に関する人口学的研究」（平成23～25年度），「長寿化・高齢化の総合的分析及びそれらが社会保障等の経済社会構造に及ぼす人口学的影響に関する研究」（平成26～28年度），「長寿革命に係る人口学的観点からの総合的研究」（平成29～31年度），「超長寿社会における人口・経済・社会のモデリングと総合分析」（令和 2 年度～）の一環として，構築・提供してきたところである．

その HMD プロジェクトの成果報告並びに今後の課題と展望を探るための第 6 回シンポジウム及びサテライトミィーティングが2022年 6 月16日から 6 月18日の日程でパリ（フランス）の国立人口研究所（INED）において開催された．今回のシンポジウムは HMD プロジェクトの20周年を祝うものとして開催され，「長寿見通しについての古くて新しい挑戦」というメインテーマが付された 2 日間のシンポジウムでは COVID-19等の新しい課題や不確実性下の国際的・地球規模的な長寿見通し等について，最新の研究成果が報告された．そして，18日のサテライトミィーティングはおもに“Subnational”（必ずしも「地域」生命表を対象とするものではなく，一国の人口集団を細分化したグループ）に関連する研究動向の紹介が行われた．時節柄，会議は対面を基本としつつも，オンライン配信を併用するという形式で行われた．ただ，開催地のネットワークの不調で必ずしも円滑な配信は行われなかったようである．

3 日間の会期中に行われた 3 つの基調講演と 9 つの口頭報告セッションにおける38報告を中心に，会議では「長寿研究の最先端」「モデル化と予測」「死亡データの課題」「地球規模的な視点」「死亡パターンのモデル化」「HMD 地域死亡プロジェクトの現状と課題」といった死亡研究の最先端の話題